

阪南市埋蔵文化財報告 46

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XXVII

2010年

阪南市教育委員会

はしがき

阪南市内には約60ヶ所の埋蔵文化財包蔵地がありますが、各種開発に伴う土木工事により、埋蔵文化財は破壊され、消滅していきます。それらに対して事前の発掘調査を実施し、記録保存を行い、先人が残してくれた貴重な文化財を後世に伝承することが我々の責務であると認識するしたいです。

本市では昭和60(1985)年度より国庫補助金を受けて発掘調査を実施し、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成21年に国庫補助事業として実施した発掘調査概要報告書です。今後、多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、発掘調査にあたってご協力いただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しまして、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

阪南市教育委員会



第1図 阪南市位置図

例　　言

1. 本書は阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課が平成21年度に国庫補助事業として計画実施した、阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2. 調査は阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課三好義三、田中早苗、上野 仁、山千代 明日香(嘱託)を担当として平成21年1月から12月にかけて実施した。
3. 本書内で示した標高はT.P.である。
4. 調査にあたっては土地所有者等、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆、編集は、上記の調査担当者が行った。また、発掘調査、整理作業は下記の調査従事者による。
6. 本書における記録は、実測図、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

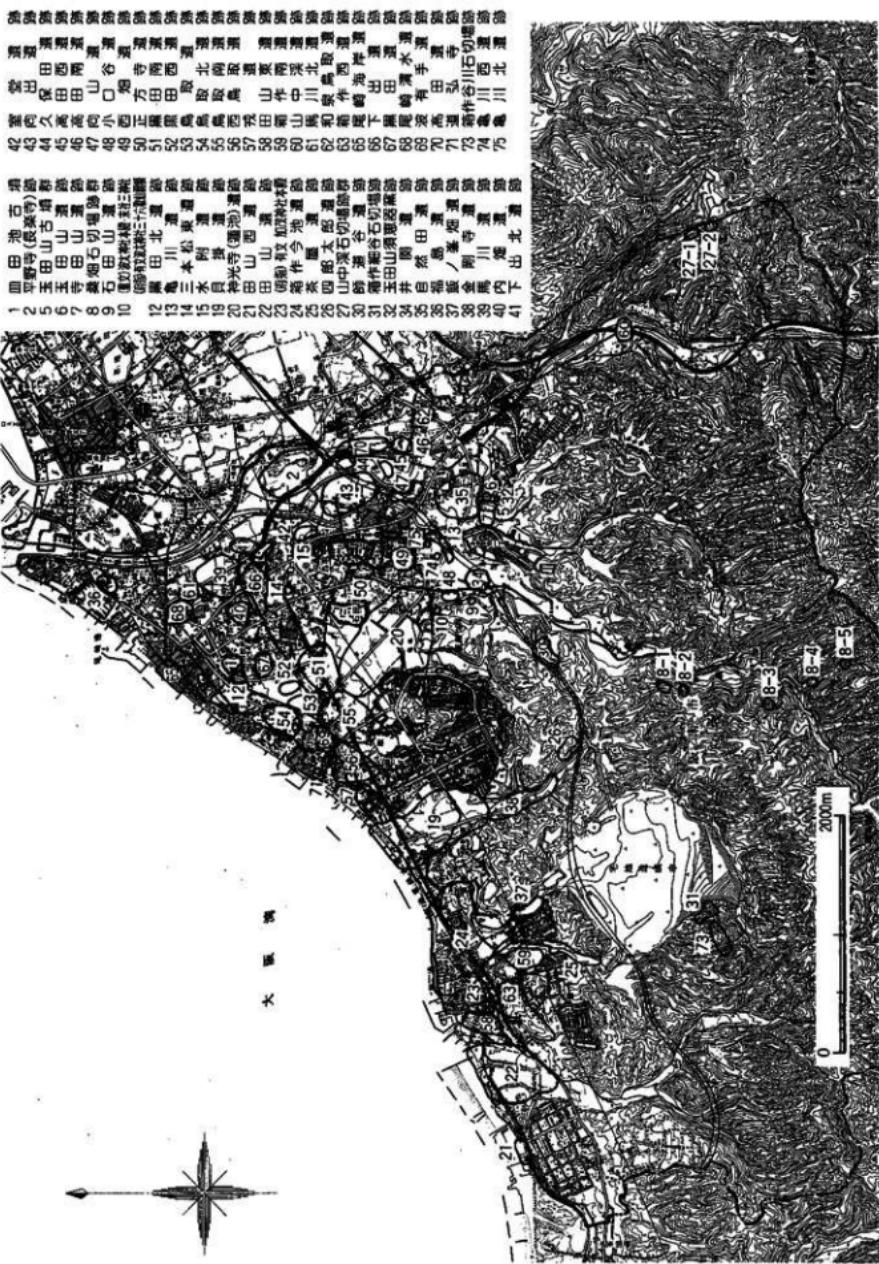
(調査従事者)

根無吉隆、南竹千代、杉田正千代、和田旬世、井上祥子、井上 進、島田万帆

目 次

第1章 調査の成果

第1節 尾崎海岸遺跡	09-1区	1
	09-2区	
第2節 尾崎清水遺跡	09-1区	2
	09-2区	
第3節 神光寺(蓮池)遺跡	09-3区	4
	09-4区	5
第4節 向出遺跡	08-6区	6
	08-8区	8
	09-1区	
第5節 向山遺跡	09-1区	9
第6節 高田南遺跡	09-2区	10
	09-3区	11
第7節 波有手遺跡	09-1区	13
第8節 戎遺跡	09-1区	14
第9節 貝掛遺跡	09-1区	15
第10節 箱作今池遺跡	09-1区	16
第11節 田山遺跡	08-1区	17
	09-1区	18
報告書抄録		19

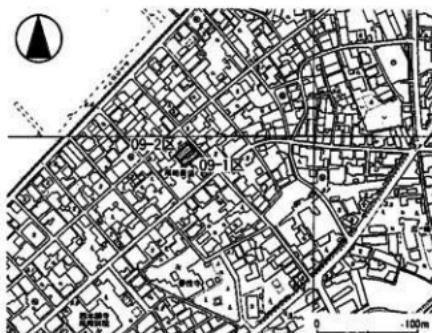


第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第1章 調査の成果

第1節 尾崎海岸遺跡

尾崎海岸遺跡は本市、北東の海岸部に位置する。平成2(1990)年度の民間開発工事で、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての製塩遺構が発見された遺跡である。また、遺跡の中心部は江戸時代から続く、浜(孝子越)街道と港で栄えた街場で、今もその歴史的景観が残っている。



第3図 尾崎海岸遺跡 調査区位置図

09-1区（第3～5図）

調査区は尾崎海岸遺跡の東部に位置する。

調査は調査区の北部に $2.3\text{m} \times 1.2\text{m}$ のトレンチを設定し、実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層茶灰色砂、第3層黄茶色砂の地山である。

遺物は盛土以外から出土しなかった。

遺構は検出されなかった。



第4図 尾崎海岸遺跡09-1区・09-2区トレンチ位置図

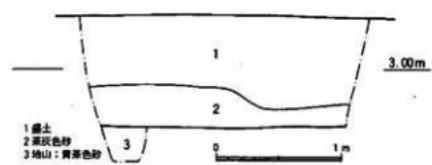
09-2区（第3・4・6図）

調査区は09-1区の北側に隣接する。

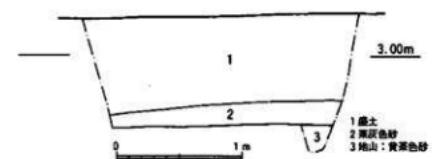
調査は調査区の北部に $2.2\text{m} \times 1.2\text{m}$ のトレンチを設定し、実施した。

基本層序は09-1区と同じく、第1層盛土、第2層茶灰色砂、第3層黄茶色砂の地山である。

遺構、遺物は検出されなかった。



第5図 尾崎海岸遺跡09-1区 トレンチ北側断面図



第6図 尾崎海岸遺跡09-2区 トレンチ南側断面図

第2節 尾崎清水遺跡

尾崎清水遺跡は男里川下流左岸の氾濫原に位置する。平成4(1992)年度の民間開発に伴う事前調査で発見された遺跡である。その後の調査では縄文時代晩期の流路や古墳時代中期の竪穴住居が検出されている。

09-1区(第7~9図)

調査区は尾崎清水遺跡の北部に位置する。

調査は調査区の南部に2.1m×1.5mのトレンチを設定し、行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡黄茶灰色土、第4層淡茶灰色土、第5層暗灰色風化礫混土、第6層淡黄茶灰白色粘質土、第7層濃灰色粘質土である。

今回の工事によって掘削される深度は地表面から約2mの第6層上面までであるが、地山確認のため、サブトレンチでさらに0.3m掘削した。しかし、検出するには至らなかった。

遺物は第4層から土師質土器、第5層から土師質土器、瓦器が出土した。

遺構は検出されなかった。

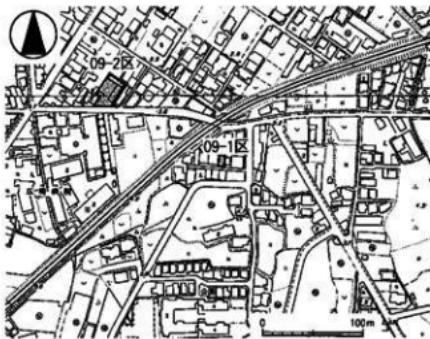
09-2区(第7・10~12図)

調査区は尾崎清水遺跡の北部に位置する。

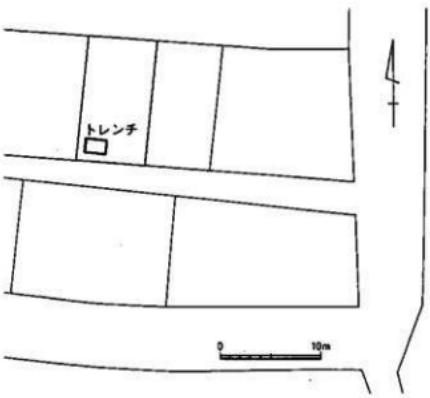
調査は調査区内に4ヶ所のトレンチを設定し、実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰色砂礫混土の地山である。

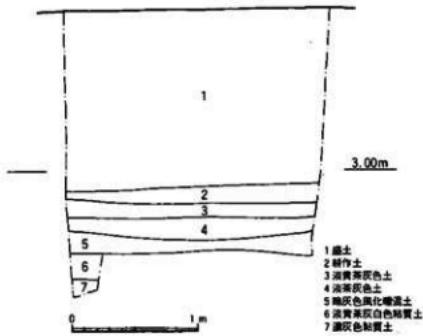
3トレンチの地山面で、北側に広がる遺構の肩を検出した。南北に幅5.8m以上、深さ



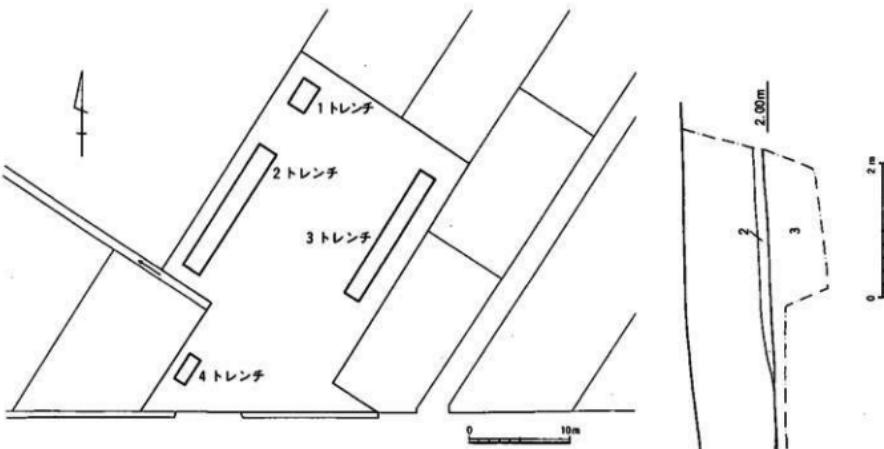
第7図 尾崎清水遺跡 調査区位置図



第8図 尾崎清水遺跡09-1区 トレンチ位置図



第9図 尾崎清水遺跡09-1区 トレンチ北側断面図



第10図 尾崎清水遺跡09-2区 トレンチ位置図

1.2m以上を測る。埋土は上層から明茶灰色土、淡黄灰色土、淡灰色土、淡茶灰色砂質土、暗灰色粘土、濃灰青色シルトで、他の1・2・4トレンチも耕作土以下は同様の堆積である。暗灰色粘土、濃灰青色シルトには植物遺体が含まれていた。埋土に葦等の植物遺体を含む層があることから、池または沼状の遺構、もしくは流路でも流れの遅い河川と考えられる。この遺構部において、1・2トレンチでは地表面から約2.5mにあたる濃灰青色シルトの下で地山を検出した。しかし、3トレンチでは地表面から2.60mまで掘削を行つたが、地山は検出されなかつた。

遺物は3トレンチの耕作土直下に存在する明茶灰色土から近世期の陶器等が、他のトレンチでも耕作土直下の層から近世期の遺物が出土している。淡黄灰色土からは瓦器等の中世土器、淡茶灰色砂質土以下の層からは須恵器や奈良時代の製塩土器等が出土していることから、中世以前に埋没したものと思われる。1は瓦器碗で淡黄灰色土から出土した。



第11図 尾崎清水遺跡09-2区
3トレンチ東側断面図

第12図 尾崎清水遺跡09-2区
出土遺物

第3節 神光寺(蓮池)遺跡

神光寺(蓮池)遺跡は市内において古くから知られている複合遺跡である。遺跡内に所在する蓮池は17世紀以前に築造された市内最大の灌漑用溜池で、池底から縄文時代草創期のサヌカイト製有茎尖頭器をはじめとして各時代の遺物が採集されているが、池築造以前の旧地層に存在していたものと判断される。また、既往の発掘調査では、弥生時代中期の方形周溝墓や波太神社の神宮寺であった神光寺の瓦等が検出されている。

09-3区 (第13~16図)

調査区は神光寺(蓮池)遺跡の南東部に位置する。

調査は調査区内に $2.7\text{m} \times 1.5\text{m}$ のトレンチを設定し、実施した。

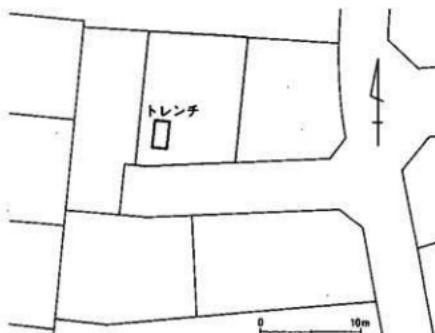
基本層序は第1層盛土、第2層淡灰橙色土、第3層灰黄色土、第4層灰色土、第5層マンガン混じりの暗灰黄色粘質土の地山である。

遺物は第2層から土師質土器、瓦器、青磁、近世瓦、第3層から黒色土器、土師質土器、瓦器、第4層から須恵器、土師質土器、瓦器が出土した。隣接する既往の調査区では第2層は中世期の包含層と思われていたが、今回の調査で近世瓦が出土したことから、第2層は近世期と考えられる。第3・4層は中世期の包含層である。1は14~15世紀のものと思われる青磁碗で第2層から、2は瓦器碗で第4層から出土した。

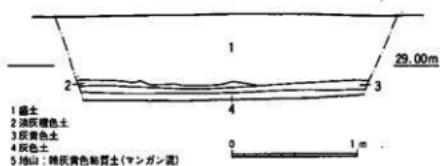
遺構は検出されなかった。



第13図 神光寺(蓮池)遺跡 調査区位置図



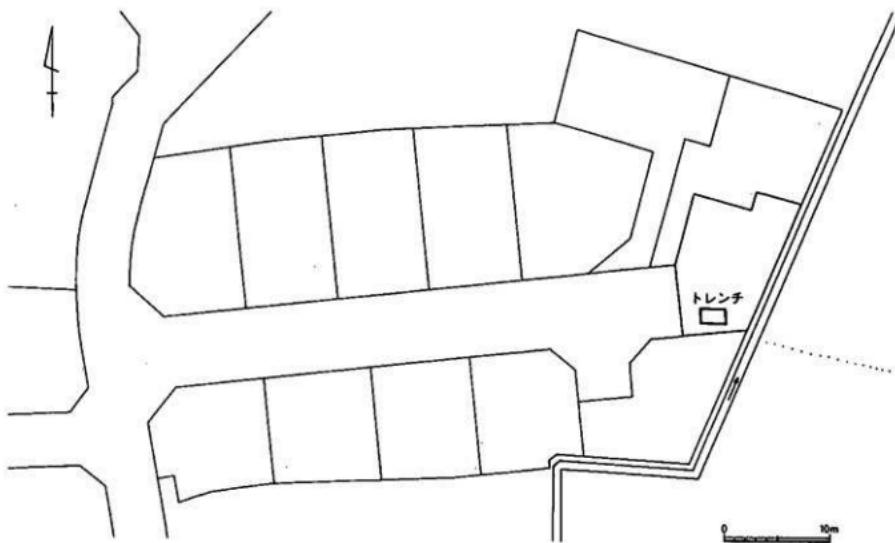
第14図 神光寺(蓮池)遺跡09-3区 トレンチ位置図



第15図 神光寺(蓮池)遺跡09-3区 トレンチ東側断面図



第16図 神光寺(蓮池)遺跡09-3区 出土遺物



第17図 神光寺(蓮池)遺跡09-4区 トレンチ位置図

09-4区（第13・17・18図）

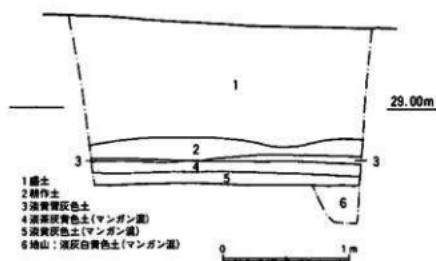
調査区は神光寺(蓮池)遺跡の南東部に位置する。

調査は調査区の南部に2.4m×1.3mのトレンチを設定し、実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡黄青灰色土、第4層マンガン混じりの淡茶灰黄色土、第5層マンガン混じりの淡黄灰色土、第6層マンガン混じりの淡灰白黄色土の地山である。

遺物は第4層から土師質土器、瓦器、白磁、第5層から土師質土器、瓦器、青磁が出土した。第4・5層は中世期の包含層と思われる。第3層から遺物は出土しなかったが、隣接する既往の調査から中世期の包含層と思われる。図示できる遺物はなかった。

遺構は検出されなかった。



第18図 神光寺(蓮池)遺跡09-4区 トレンチ南側断面図

第4節 向出遺跡

向出遺跡は昭和62(1987)年に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査で発見された。本市の東部を流れる山中川と菟砥川に挟まれた河岸段丘とその氾濫原に位置する。遺跡の北部は調査例が少ないため詳細は不明であるが、中央部では古墳時代中期の竪穴住居が数棟検出されている。東部では中世瓦が出土しており、寺院等の存在を想定されるが、現在のところ明らかになっていない。南部では平成9(1997)年に(財)大阪府文化財調査研究センターが行った、国道26号線(第二阪和国道)の延伸に先立つ発掘調査で、1700基に及ぶ縄文時代の土坑が発見され、当時「西日本最大級の縄文時代後晩期の土坑墓群」としてマスコミを賑わせた。また、その上層からは弥生時代後期から古墳時代初頭の竪穴住居が数棟検出され、同時代の集落が広がっていることも特筆すべき事項である。これらの結果を踏まえ、当市教育委員会では史跡指定を視野に範囲確認調査を行い、有識者による評価検討を行った。

08-6区(第19~22図)

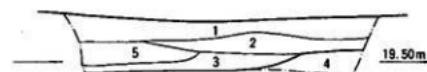
調査区は向出遺跡の中央部に位置する。平成18(2006)年度に調査を実施した当開発地内の調査区では、地山面で古墳時代の竪穴住居等を確認している。

調査は調査区の北部に2.4m×1.1mのトレンチを設定し、実施した。

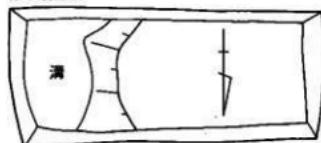
基本層序は第1層盛土、第2層淡茶灰色土、第3層暗茶黒色礫混土、第4層暗黄褐色礫混土の地山である。前述の調査区では、第2層と第3層の間に淡黄茶色土層が存在したが、今回の調査では検出されなかった。



第19図 向出遺跡 調査区位置図



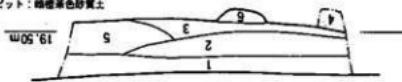
第3層上面



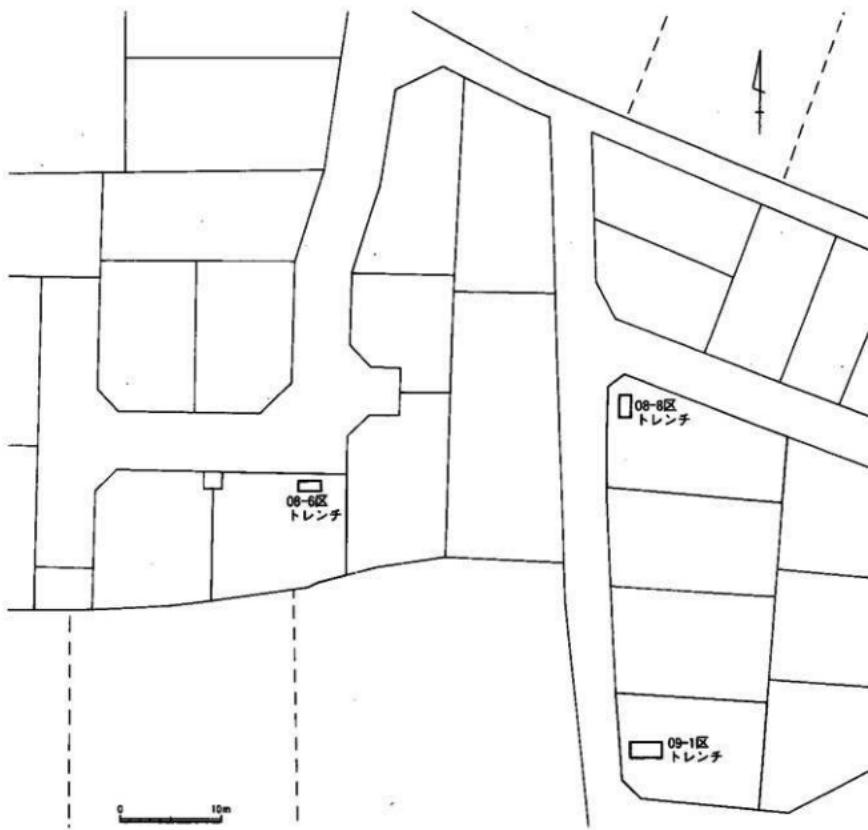
地山面



- 1 盛土
- 2 淡茶灰色土
- 3 暗茶黒色礫混土
- 4 暗黄褐色礫混土
- 5 淡灰褐色土
- 6 ピット：細縫茶色砂質土



第21図 向出遺跡08-6区 トレッセ平面図・断面図



第20図 向出遺跡08-6区・08-8区・09-1区 トレンチ位置図

遺物は第2層から黒色土器、土師質土器、瓦器、第3層から土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器等が出土したが、既往の調査から第2層は近世期、第3層は中世期の包含層である。1は瓦器椀で第3層から出土した。

遺構は第3層上面で南北方向の溝1条と地山面でピット1基を検出した。

溝は南北0.90m以上、東西0.90m以上、深さ0.18mを測る。埋土は淡灰茶色土で、遺物は黒色土器、土師質土器、瓦器が出土した。2は内黒の黒色土器椀である。ピットは直径0.4m以上、深さ0.10mで、埋土は暗橙茶色砂質土。遺物は出土しなかった。



第22図 向出遺跡08-6区 出土遺物

08-8区（第19・20・23図）

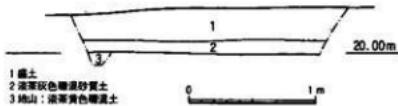
調査区は向出遺跡の中央部に位置する。

調査は調査区内に $2.2\text{m} \times 1.3\text{m}$ のトレンチを設定し、実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層淡茶灰色礫混砂質土、第3層淡茶黄色礫混土の地山である。

遺物は第2層から須恵器、土師質土器が出土したが、隣接する既往の調査から近世期の包含層と思われる。

遺構は検出されなかった。



第23図 向出遺跡08-8区 トレンチ東側断面図

09-1区（第19・20・24図）

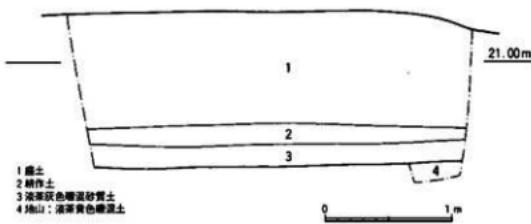
調査区は向出遺跡の中央部に位置する。

調査は調査区内に $3.3\text{m} \times 1.8\text{m}$ のトレンチを設定し、実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡茶灰色礫混砂質土、第4層淡茶黄色礫混土の地山である。

遺物は第2層から土師質土器が出土したが、図示できる遺物はなかった。前述の08-8区と同じく、隣接する既往の調査から近世期の包含層と思われる。

遺構は検出されなかった。



第24図 向出遺跡09-1区 トレンチ南側断面図

第5節 向山遺跡

向山遺跡は男里川支流の菟砥川と山中川が大きくS字状に蛇行し、形成された狭小な段丘面上に広がる遺跡である。昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査で発見された。平成10(1998)年度に(財)大阪府文化財調査研究センターが行った約4000m²の調査では、弥生時代後期から古墳時代中期にかけての竪穴住居、古墳時代後期の小石室、平安時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物群が検出されている。今回の調査区に南接する、当教育委員会が平成16(2003)年度に行った03-1区の調査では、包含層はすべて近世期であったが、地山面で近世期の土坑とともに縄文時代や弥生時代後期の土坑も検出されている。

09-1区（第25～27図）

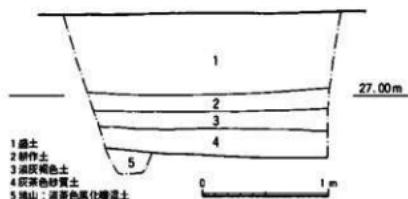
調査区は向山遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に2.2m×1.2mのトレンチを設定し、実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡灰褐色土、第4層灰茶色砂質土、第5層淡茶色風化礫混土の地山である。

遺物は第3・4層からそれぞれ土師質土器、陶器が出土した。すべて近世期の包含層である。

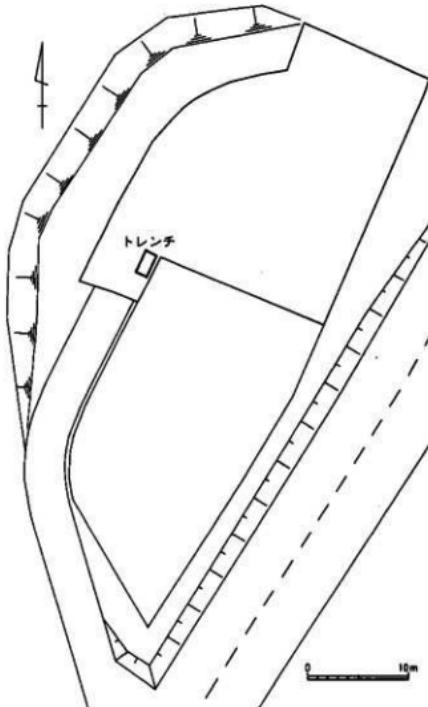
遺構は検出されなかった。



第27図 向山遺跡09-1区 トレンチ西側断面図



第25図 向山遺跡 調査区位置図



第26図 向山遺跡09-1区 トレンチ位置図

第6節 高田南遺跡

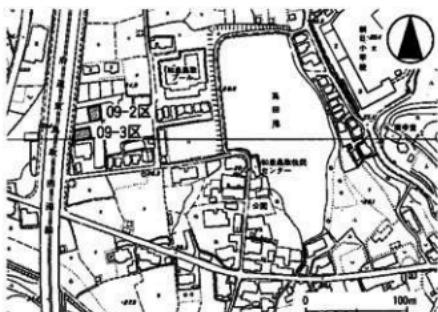
高田南遺跡は菟谷川の河岸段丘上に位置する。東側の丘陵には高田山古墳群が存在していたが、開発により現在は消滅した。阪南町教育委員会が昭和63(1988)年度に行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。その調査では土師器、須恵器、瓦器、瓦、陶器、磁器等が採集されている。平成6(1994)年に初めての発掘調査が行われたが、遺構は検出されず、遺跡の詳細は不明であった。その後、平成18(2006)年度に民間開発に先立つ、 275.0m^2

と比較的広い面積の調査では、中世期の流路を検出している。

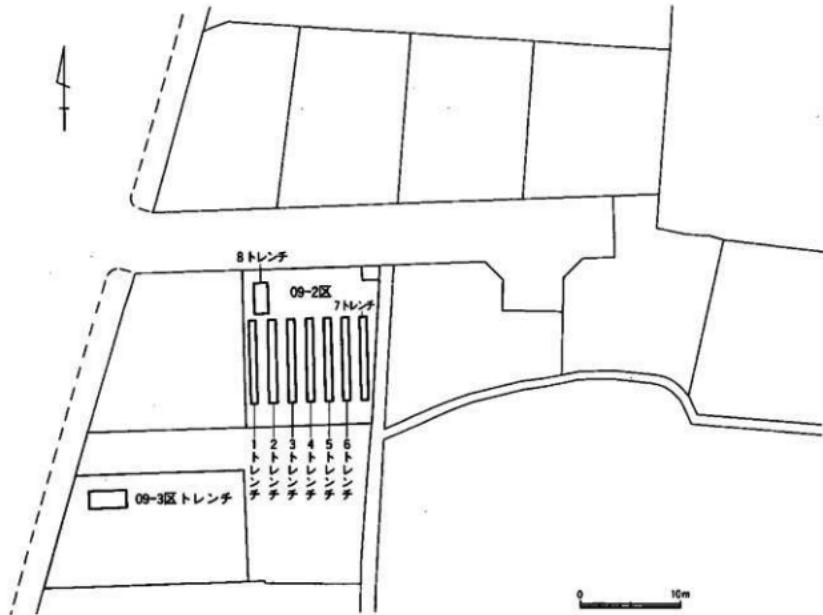
09-2区 (第28~31図)

調査区は高田南遺跡の北部に位置し、前述した民間開発区域内に所在する。

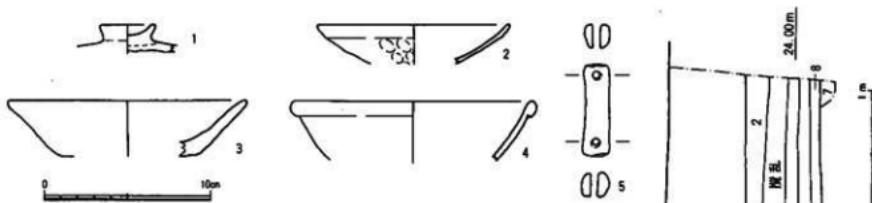
調査は調査区内に $8.4\text{m}\times 0.9\text{m}$ のトレンチを7ヶ所と $3.2\text{m}\times 1.6\text{m}$ のトレンチを1ヶ所設定し、実施した。



第28図 高田南遺跡 調査区位置図



第29図 高田南遺跡09-2区・09-3区 トレンチ位置図



第31図 高田南遺跡09-1区 出土遺物

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層淡青茶灰色土、第5層マンガン混じりの淡黄灰色土、第6層黄褐色粘土、第7層黄褐色砂混粘土で、第6・7層は地山である。

遺物は第4層からサヌカイト、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、白磁、土師質靖壺、土師質有孔土錐、中世瓦、スサ入焼土塊、第5層から須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、土師質有孔土錐、中世瓦が出土した。第4・5層は中世期の包含層である。

1は須恵器の杯蓋で、大きく凹んだボタン状のつまみ部分である。2は瓦器碗で、13世紀のもの。3は土師質皿で、内外面とも摩滅が激しい。4は白磁碗で、口縁は玉縁状であり、13世紀のもの。5は土師質有孔土錐で、長さ5.5cm、幅1.7cm、厚さ1.5cm、重さ18g。両端には焼成前に孔が穿たれており、孔の直径は0.5cmである。1～4は第4層から、5は第5層から出土した。

平面プランでは遺構の図示はされていないが、北側に隣接する前述した調査区において、淡灰緑色土、淡黄橙灰色砂混粘質土を埋土とする南北に流れる中世期の流路を確認しており、今回の調査区は全体がこの流路内に収まることが調査以前より想定されていた。想定通りに1・2・6～8トレンチでは、埋土が確認されたが、調査区の中央部にあたる3～5トレンチでは、埋土が検出されなかった。流路のこの部分が中洲状になっていた可能性等が示唆される。なお、本調査でもこの埋土中からサヌカイト、須恵器、土師質土器、瓦器、中世瓦が出土した。

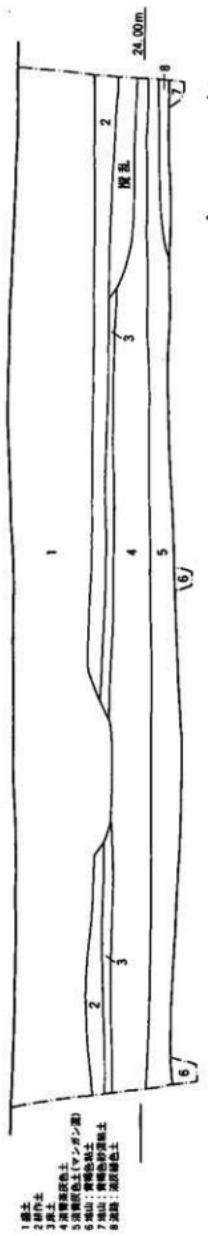
09-3区（第28・29・32図）

調査区は前述した09-2区の南側に近接する。

調査は調査区内に3.8m×1.8mのトレンチを設定し、実施した。

今回の工事による掘削面の現地表面より2.6mまで掘削したが、地山の確認には至らなかった。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層マンガン混じりの淡黄灰色砂質土、第5層マンガン混じりの淡灰黄茶色土である。

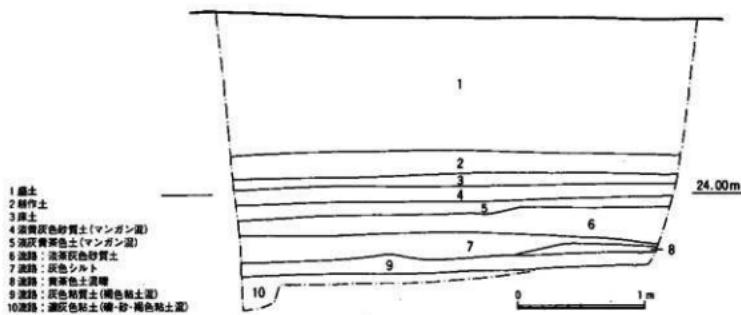


第30図 高田南遺跡09-2区
7トレンチ東側断面図

遺物は第4層から土師質土器、第5層から陶器、第6層から土師質土器が出土した。第4・5層は近世期の包含層である。

第6層以下はシルトや砂、礫等が相互に堆積する層で、09-2区とは同じ堆積ではないが、流路の埋土と考えられる。

遺物は第7層から土師質土器が出土したが、小片のため時期は不明である。



第32図 高田南遺跡09-3区 トレンチ北側断面図

第7節 波有手遺跡

波有手遺跡は海岸線より約500m内陸部に位置する。平成5(1993)年に公共工事に先立つ試掘調査で発見された遺跡で、その調査では奈良時代の墨書き土器が36点出土し、うち31点に「海」という文字が描かれていた。また、同時代の製塩土器も大量に出土しており、製塩に関係する施設の存在が想定される。

09-1区（第33～35図）

調査区は波有手遺跡の北東部に位置する。

調査は調査区内に2.3m×1.7mのトレンチを設定し、実施した。

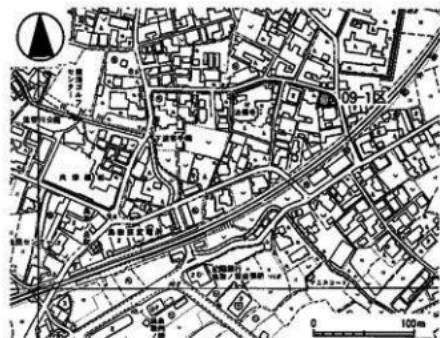
基本層序は第1層盛土、第2層茶灰色土、第3層黄茶灰色土、第4層淡茶黃灰色土、第5層淡茶灰色土の地山である。

遺物は第2層から土師質土器、中世瓦、磁器、第3層から須恵器、土師質土器、土師質蛸壺、陶器、磁器、近世瓦、第4層から土師質土器、中世瓦、磁器が出土した。第2・3層は近代期、第4層は近世期である。

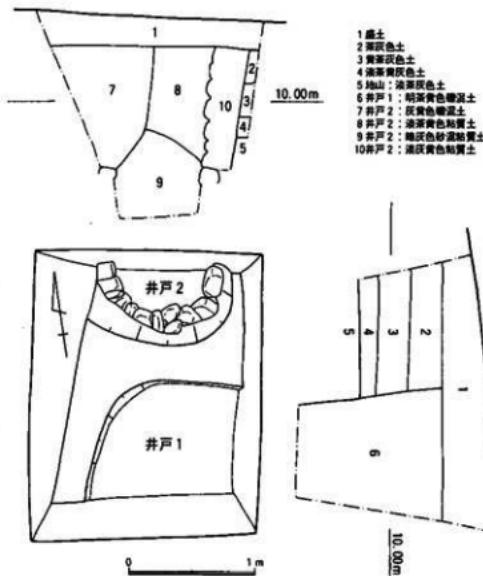
遺構は第2層上面で近代期の井戸を2基検出した。井戸1は素堀の井戸で、直径1.2m以上、埋土は明茶黄色礫混土である。井戸2は石組の井戸で、直径1.0m以上で、埋土は上層から灰黄色礫混土、淡茶黄色粘質土、暗灰色砂混粘質土、淡灰黄色粘質土である。今回の工事による掘削面である現地表面より1.6mまで掘削したが、底は検出できなかった。遺物はいずれからも近代期の陶器、磁器、瓦等が出土した。



第34図 波有手遺跡09-1区 トレンチ位置図



第33図 波有手遺跡 調査区位置図



第35図 波有手遺跡09-1区 トレンチ平面図・断面図

第8節 戻遺跡

戻遺跡は海岸線から直線距離にして約100mで、標高約8mから12mの大坂湾を望む小高い段丘上に所在する。昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査で発見された遺跡である。過去に数件の発掘調査が行われているが、いずれも小規模なもので、遺構も検出されておらず、遺跡の性格等を把握するまでには至っていない。



第36図 戻遺跡 調査区位置図

09-1区（第36～38図）

調査区は戻遺跡の中央部に位置する。

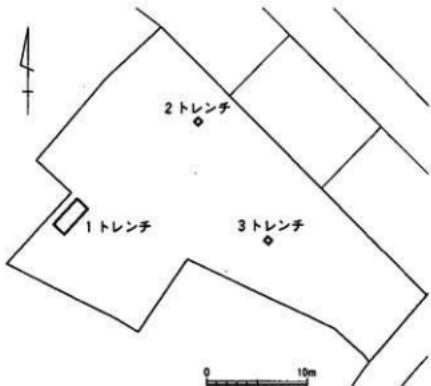
調査は調査区内に3.5m×1.5mのトレンチと0.6m×0.6mのトレンチを2ヶ所設定し、実施した。

基本層序は第1層耕作土、第2層淡灰色砂質土、第3層淡茶橙色砂質土、第4層淡灰橙茶色砂質土、第5層淡黄灰色砂質土、第6層濃茶灰色砂、第7層淡灰黄色粘土の地山である。

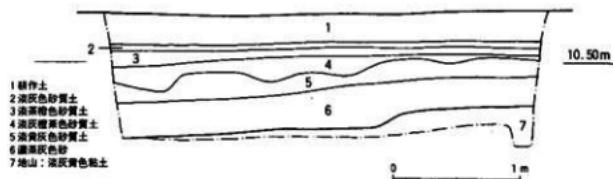
遺物は第5層から近世期の磁器が出土したが、小片のため図示できなかった。

第5層までは近世期の包含層であるが、第6層については遺物の出土がなく時期は不明である。

遺構は検出されなかつたが、第3層以下は南側に向かって全体に傾斜している。



第37図 戻遺跡09-1区 トレンチ位置図



第38図 戻遺跡09-1区 1トレンチ西側断面図

第9節 貝掛遺跡

貝掛遺跡は本市の中央部を流れる釧路坊川と花折川に挟まれた、南北に長い谷に位置する。昭和61(1986)年に本市が行った86-1区の調査では、中世期の溝が数条の他、縄文時代のサヌカイト製石槍や石鏃、土師器、須恵器、瓦器、近世期の陶器、磁器等、様々な時代の遺物が確認されている。同じく昭和61年に(財)大阪府埋蔵文化財協会が実施した調査では、近世期の建物跡が確認され、文献や絵図等に記載されている同時代の集落「舞村」の存在が裏付けられた。また、平成元(1989)年に本市が行った89-3区の調査では、7世紀前半の建物跡を検出した他、土坑から金銅製耳環、奈良三彩の八曲長杯等、特異な遺物が出土している。

09-1区（第39～41図）

調査区は貝掛遺跡の中央部に位置する。

調査は調査区の北部に $2.5\text{m} \times 1.5\text{m}$ と南部に $1.5\text{m} \times 1.1\text{m}$ のトレンチを設定し、実施した。

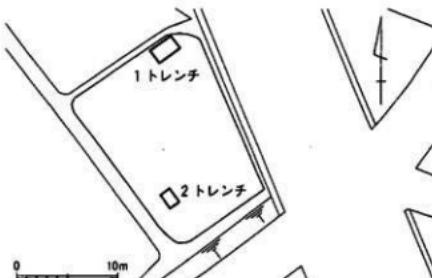
層序については、第1層耕作土と明茶黄色風化凍泥粘土の地山の間に、1トレンチでは褐茶灰色砂質土、2トレンチでは褐灰色砂質土の遺物包含層が存在するが、相互の関係は不明である。

遺物は褐茶灰色砂質土から土師質土器、褐灰色砂質土から土師質土器、磁器が出土したが、いずれも小片のため詳細は不明である。

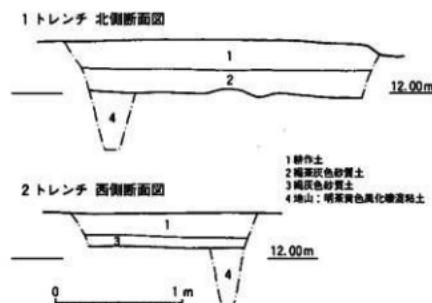
遺構は検出されなかった。



第39図 貝掛遺跡 調査区位置図



第40図 貝掛遺跡09-1区 トレンチ位置図



第41図 貝掛遺跡09-1区 トレンチ断面図

第10節 箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は茶屋川の河岸段丘によって形成された狭小な平坦面に展開する遺跡である。旧国道26号線を挟んで北側は旧市街の古い街並みが軒を連ね、南側には田畠が広がっていたが、平成5(1993)年から約4年間、区画整理事業に先立つ約15,400m²の発掘調査が行なわれた。その調査で検出された自然流路では縄文時代から弥生時代の石器、弥生土器が出土している。また、奈良時代には掘立柱建物群が形成されていた。続く中世期には大規模な造成が行われ、大小の自然河川は整地によって埋め立てられた。また、段丘斜面を削り出して平地化し、水路を整えてほぼ全域を耕地化し、近世期に至っている。

09-1区(第42~45図)

調査区は箱作今池遺跡の南部に位置する。

調査は調査区の北部に2.4m×1.2mのトレチを設定し、実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層褐茶色砂質土、第4層淡茶灰色砂質土、第5層マンガン混じりの淡灰色砂質土、第6層マンガン混じりの淡黄灰色砂質土、第7層風化礫混じりの灰色粘質土、第8層褐黃灰色礫混粘土の地山である。

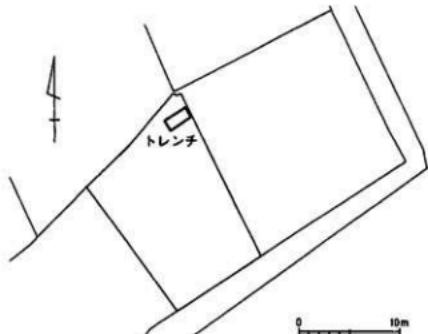
遺物は第3層から土師質土器、第4層から土師質土器、瓦器、第5層から須恵器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、土師質鉗壺、第6層から土師質土器、瓦器が出土した。第3~6層は中世期の包含層と思われる。

1・2は瓦器碗で、どちらも第5層から出土した。

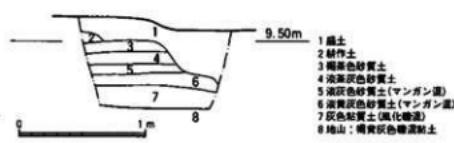
遺構は検出されなかった。



第42図 箱作今池遺跡 調査区位置図



第43図 箱作今池遺跡09-1区 トレチ位置図



第44図 箱作今池遺跡09-1区 トレチ西側断面図



第45図 箱作今池遺跡09-1区 出土遺物

第11節 田山遺跡

田山遺跡は北側を大阪湾に面し、南は和泉山脈が迫る東西に細長く伸びる低台地に広がる弥生時代から中世期にかけての複合集落遺跡である。昭和52(1977)年3月に大阪府教育委員会より発刊された大阪府文化財分布図に記載されている。昭和55(1980)年11月から3ヶ年にわたって行われた(財)大阪文化財センターの調査では、縄文時代から近代期までの遺物が出土しているが、奈良時代と中世期の遺構、遺物が田山遺跡の特徴を顕著にあらわしている。奈良時代には集落の存在が確認され、同時代の一般的な遺物の他に、煎熬工程と固形塩製造工程に使われた製塩土器や円面硯、墨書土器、壇状遺物等の出土により、内陸部へ塩を配送するための基地としての性格が推測される。海岸線近くでは中世期の住居跡、蛸壺や土錘を焼いた窯跡と思われる土坑が検出されている。また、出土遺物に東播磨系の日常雑器や輸入陶磁器も数多く含まれていたことから、単なる漁村としての集落ではなく、少し異なった性格の集落が存在していた可能性が考えられる。

08-1区（第46～49図）

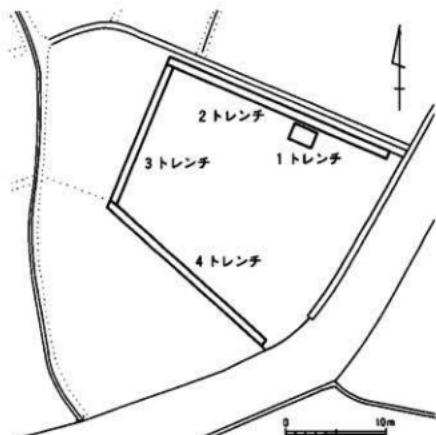
調査区は田山遺跡の北部に位置する。

調査は工事によって、地山まで掘削の及ぶ浄化槽部と擁壁部について行った。浄化槽部は $2.4m \times 1.6m$ の1トレンチ、擁壁部は幅0.8mで長さは2トレンチが23.8m、3トレンチが14.2m、4トレンチが21.0mである。

基本層序は第1層耕作土、第2層淡黄灰色礫混砂質土、第3層淡茶灰色礫混砂質土、



第46図 田山遺跡 調査区位置図



第47図 田山遺跡08-1区 トレンチ位置図

第4層淡灰黄色砂混粘質土の地山であるが、2トレンチの西端部と3トレンチでは第3層と地山の間に砂混じりの淡黄茶色礫混土が堆積していた。

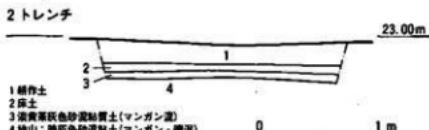
遺物は第2層から須恵器、土師質土器、土師質壺、土師質管状土錐、中世瓦、陶器、磁器、第3層から須恵器、土師質土器、青磁、白磁、青花が出土した。1は土師質管状土錐で第2層から出土した。2は14世紀前半の青磁盤で、口縁部を「く」の字状に折り曲げ、さらに端部を上方に引き上げている。3は白磁皿で15~16世紀のものである。2・3は第3層から出土した。第2層は近世期、第3層は中世期の包含層である。

遺構は1トレンチの地山面でピット1基を検出した。直径0.28m、深さ0.20mで、埋土は暗茶灰色砂質土。遺物は出土しなかった。

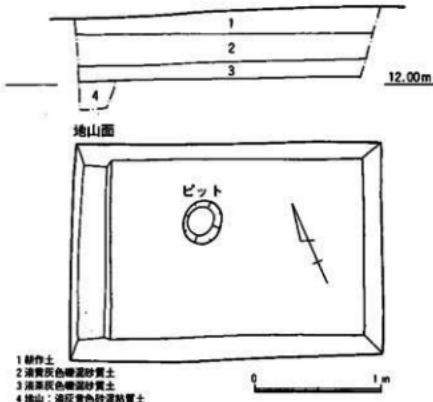
09-1区（第46・50・51図）

調査区は田山遺跡の南部に位置する。調査は調査区内の東端部に2.0m×0.5mの1トレンチと中央部に2.0m×1.0mの2トレンチを設定し、実施した。

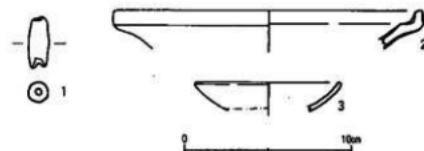
基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層マンガン混じりの淡黄茶色砂混粘質土、第4層マンガン・礫混じりの暗灰色砂混粘土の地山であるが、1トレンチでは第3層が見られなかったため、耕地地化に伴い削平されたものと考えられる。



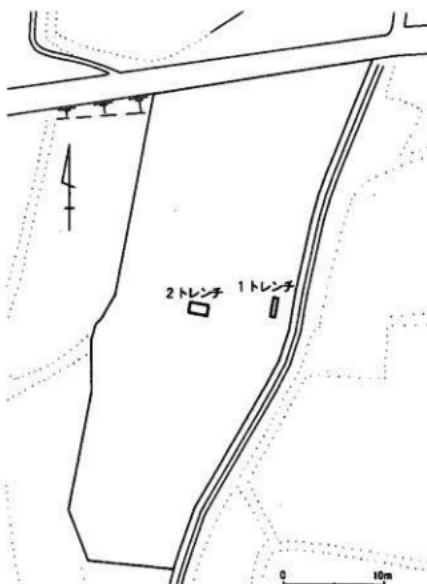
第51図 田山遺跡09-1区 2トレンチ南側断面図



第48図 田山遺跡08-1区 1トレンチ平面図・断面図



第49図 田山遺跡08-1区 出土遺物



第50図 田山遺跡09-1区 トレンチ位置図

報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいよう 27						
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XXVII						
副書名							
卷次							
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告						
シリーズ番号	46						
編著者名	三好義三・田中早苗・上野仁・山千代明日香						
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課						
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 072-471-5678						
発行年月日	2010年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号 遺跡番号	北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
尾崎海岸	尾崎町	27232	65	34 36 12	135 24 28	20090520~0525	2.76 個人住宅
尾崎海岸	尾崎町	27232	65	34 36 11	135 24 29	20090520~0525	2.64 個人住宅
尾崎清水	尾崎町	27232	68	34 36 09	135 24 76	20090408~0410	3.15 個人住宅
尾崎清水	尾崎町	27232	68	34 36 14	135 24 63	20090803~0806	65.00 地下理設物調査
神光寺(蓮池)	石田	27232	20	34 34 29	135 24 80	20090907・0908	4.05 個人住宅
神光寺(蓮池)	石田	27232	20	34 34 31	135 24 89	20090924・0925	3.12 個人住宅
向出	自然田	27232	43	34 34 78	135 25 82	20090119・0120	2.60 個人住宅
向出	自然田	27232	43	34 34 77	135 25 86	20090317・0318	2.86 個人住宅
向出	自然田	27232	43	34 34 74	135 25 86	20091013・1014	5.94 個人住宅
向山	自然田	27232	47	34 34 38	135 25 78	20090424~0427	2.64 個人住宅
高田南	いづみととり 和泉鳥取	27232	46	34 34 38	135 26 25	20090928・1009	58.19 個人住宅
高田南	いづみととり 和泉鳥取	27232	46	34 34 35	135 26 23	20091207	6.84 個人住宅
波有田	鳥取	27232	69	34 34 95	135 23 66	20091224	4.14 個人住宅
戎	鳥取	27232	57	34 34 59	135 23 08	20090811・0812	5.25 個人住宅
貢掛	貢掛	27232	19	34 34 14	135 22 68	20090609・0610	5.40 個人住宅
箱作今池	箱作	27232	24	34 33 87	135 21 61	20090701・0702	2.88 個人住宅
田山	箱作	27232	22	34 33 65	135 20 34	20090327~0410	51.00 個人住宅
田山	箱作	27232	22	34 33 20	135 20 37	20091214	3.00 個人住宅

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎海岸	散布地	不明			
尾崎海岸	散布地	不明			
尾崎清水	散布地	不明		土師質土器、瓦器	
尾崎清水	散布地	奈良時代～近世期		須恵器、瓦器、製塙土器	
神光寺(蓮池)	散布地	中世期～近世期		須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、青磁、近世瓦	
神光寺(蓮池)	散布地	中世期		土師質土器、瓦器、青磁、白磁	
向出	散布地	中世期～近世期	溝、ピット	土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器	
向出	散布地	近世期		須恵器、土師質土器	
向出	散布地	近世期		土師質土器	
向山	散布地	近世期		土師質土器、陶器	
高田南	散布地	中世期		サヌカイト、須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、白磁、土師質蛸壺、土師質有孔土錘、中世瓦、スサ入焼土塊	
高田南	散布地	中世期		土師質土器、陶器、磁器	
波有手	散布地	近世期～近代期	石組井戸 素掘井戸	須恵器、土師質土器、瓦器、土師質蛸壺、陶器、磁器、中世瓦、近世瓦	
戎	散布地	近世期		磁器	
貝掛	散布地	不明		土師質土器、磁器	
箱作今池	散布地	中世期		須恵器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、土師質蛸壺	
田山	散布地	中世期～近世期	ピット	須恵器、土師質土器、土師質蛸壺、土師質管状土錘、青磁、白磁、青花、陶器、中世瓦	
田山	散布地	不明		黒色土器、土師質土器	



尾崎海岸遺跡09-1区
トレンチ全景(東より)



尾崎海岸遺跡09-2区
トレンチ全景(東より)



尾崎清水遺跡09-1区
トレンチ全景(東より)



尾崎清水遺跡09-2区
1トレンチ全景(南より)



尾崎清水遺跡09-2区
2トレンチ全景(北より)



尾崎清水遺跡09-2区
3トレンチ全景(北より)



尾崎清水遺跡09-2区
4トレンチ全景(北より)



神光寺(蓮池)遺跡09-3区
トレンチ全景(北より)



神光寺(蓮池)遺跡09-4区
トレンチ全景(東より)



向出遺跡08-6区
第3層上面 溝(西より)



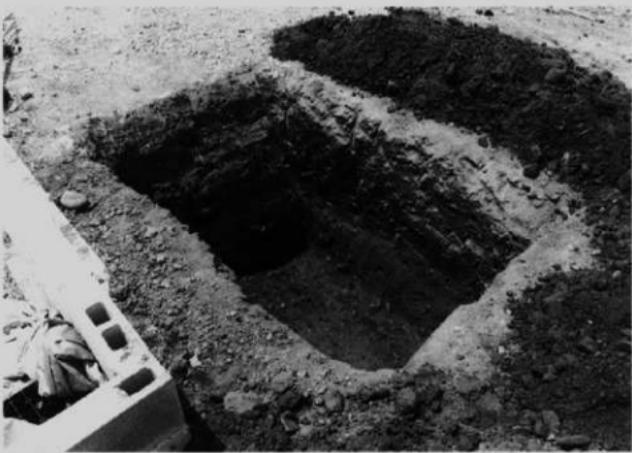
向出遺跡08-6区
地山面 ピット(西より)



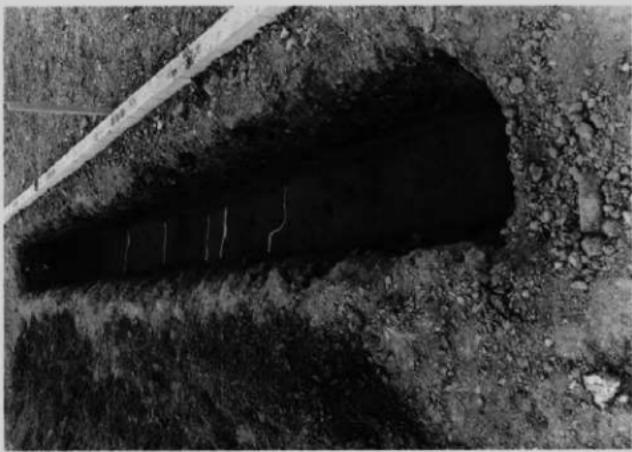
向出遺跡08-8区
トレンチ全景(南より)



向山遺跡09-1区
トレンチ全景(東より)



向山遺跡09-1区
トレンチ全景(北より)



高田南遺跡09-2区
トレンチ全景(北より)



高田南遺跡09-2区
2トレンチ全景(北より)



高田南遺跡09-2区
3トレンチ全景(北より)



高田南遺跡09-2区
4トレンチ全景(北より)



高田南遺跡09-2区
5トレンチ全景(北より)



高田南遺跡09-2区
6トレンチ全景(北より)



高田南遺跡09-2区
7トレンチ全景(北より)



高田南遺跡09-2区
8トレンチ全景(南より)



高田南遺跡09-3区
トレンチ全景(東より)



波有手遺跡09-1区
トレンチ全景(南より)



貝掛遺跡09-1区
1トレンチ全景（東より）



貝掛遺跡09-1区
2トレンチ全景（南より）





田山遺跡08-1区
3トレンチ全景(南より)



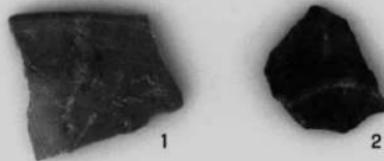
田山遺跡08-1区
4トレンチ全景(東より)



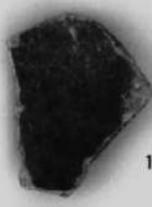
田山遺跡09-1区
トレンチ全景(東より)



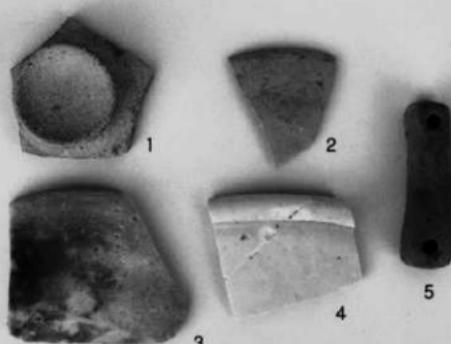
尾崎清水遺跡09-2区
出土遺物



神光寺(蓮池)遺跡09-3区 出土遺物



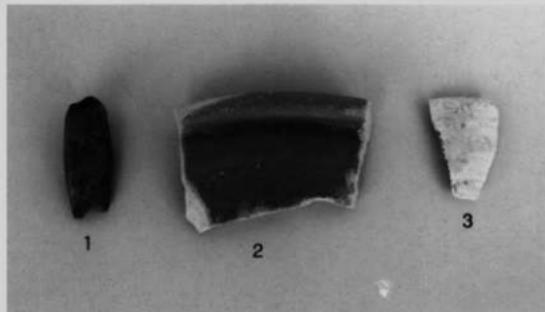
向出遺跡08-6区 出土遺物



高田南遺跡09-2区 出土遺物



箱作今池遺跡09-1区
出土遺物



田山遺跡08-1区 出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 46

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XXVII

2010年3月

発行：阪南市教育委員会
生涯学習部生涯学習推進課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：株式会社 藤谷印刷所
大阪府貝塚市北町19番14号